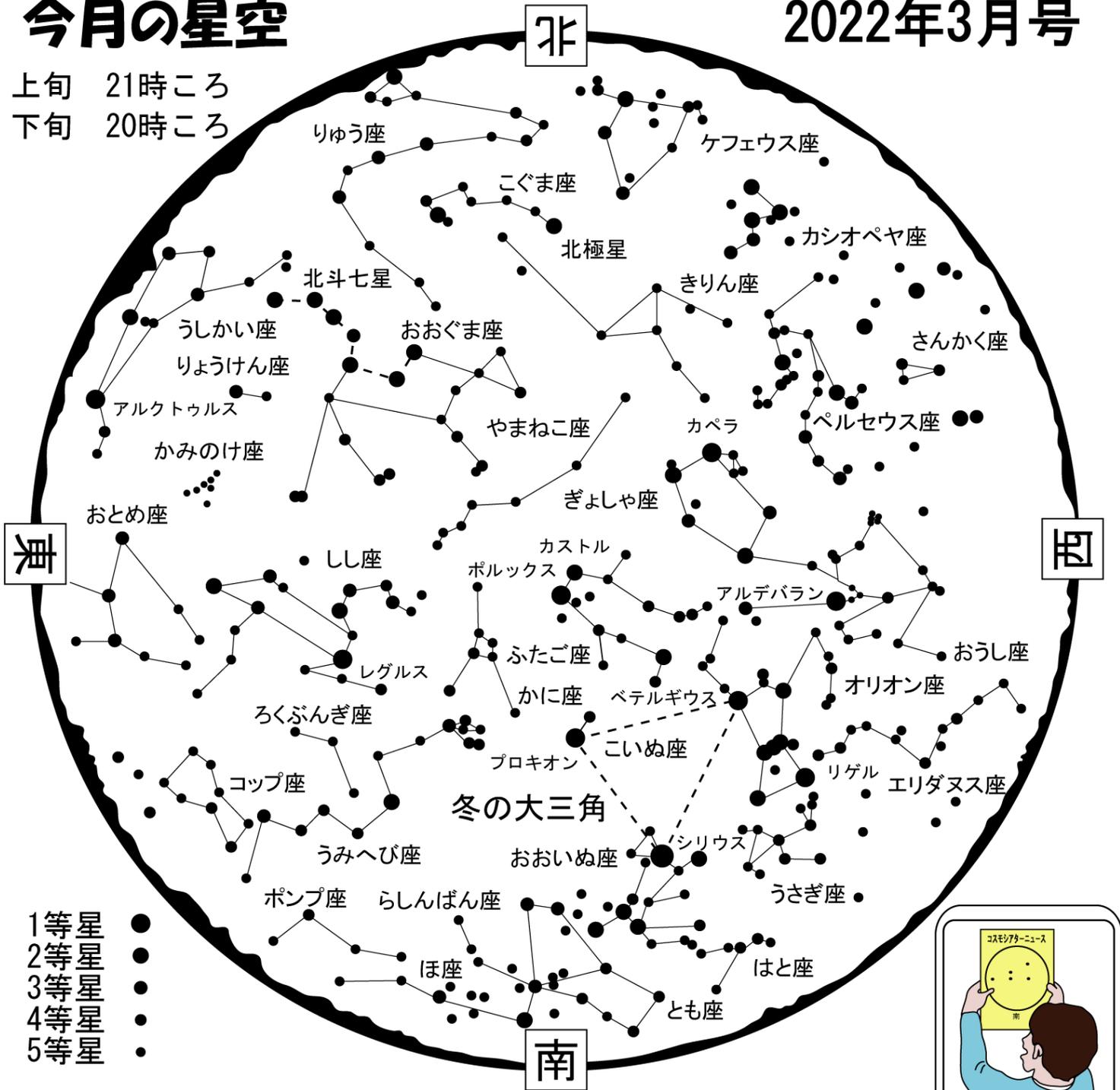


コスモシアターニュース

今月の星空

2022年3月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



水星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
金星：明け方、南東の低い空に見えます。明るさは-4.5等星です。月末に月と並んで輝きます。
火星：明け方、南東の低い空に見えます。明るさは1等星です。金星の近くに見えます。
木星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。
土星：明け方、南東の低い空に見えます。月末に月と並んで輝きます。



自分の向いている方向を下にして、見てください

今月の月の満ち欠け

新月：3日(木) 上弦：10日(木) 満月：18日(金) 下弦：25日(金)

20日(日)、金星が西方最大離角

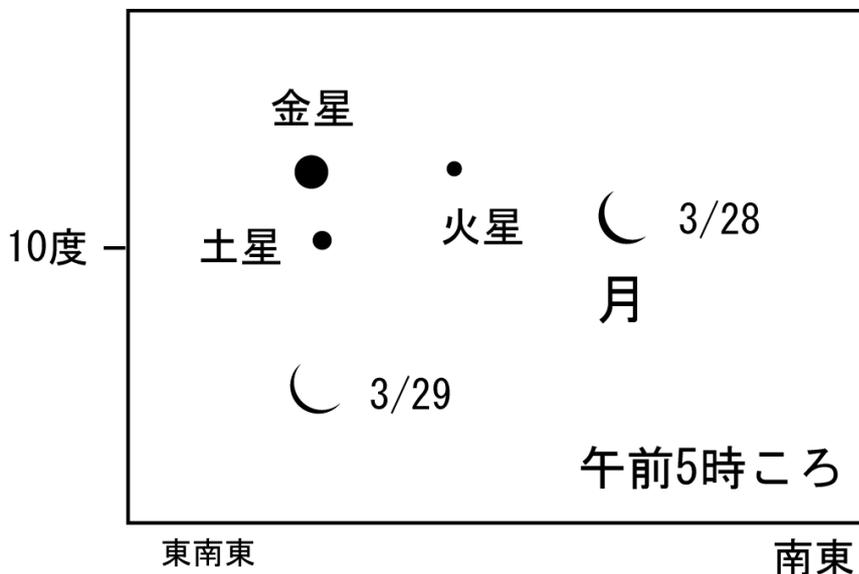
金星が、太陽から見かけ上最も西側に離れて見える時を、西方最大離角(せいほうさいだいいりかく)といいます。この日は、明け方の金星が一番見やすいころになります。このころ、金星は午前4時すぎに東の空から昇り、午前5時30分ころまで明け方の空に輝きます。金星は、星の中で一番明るく、日の出ぎりぎりまで見えることがあります。何時まで見えるか、ぜひ挑戦してみてください。金星は、西方最大離角の日だけ見やすいのではなく、3月から5月ころまで見ごろが続きます。なお、西方最大離角のころは、金星を天体望遠鏡で見ると、ほぼ半分に分けた姿に見えます。天体望遠鏡をのぞく機会があれば、形にも注目してください。

28日(月)、明け方、南東の空で、月と惑星が並んで輝く

28日(月)、明け方の午前5時ころ、南東の低い空に金星が見えています。そして、この金星のすぐ右に、細い月が輝き、大変美しい眺めとなります。なお、金星のすぐ右に火星、すぐ下に土星が輝いています。金星に比べかなり暗いのですが、天気良ければ、見つけることができるかもしれません。

月と金星の姿は、肉眼で見ることができ、気軽に楽しむことができます。また、双眼鏡があれば、火星や土星も簡単に見ることができます。

なお、翌29日(火)の明け方は、月が金星の下に移動し、さらに細くなります。月の高度が低いので、かなり見つけにくくなりますが、天気良ければ、こちらも美しい眺めとなります。

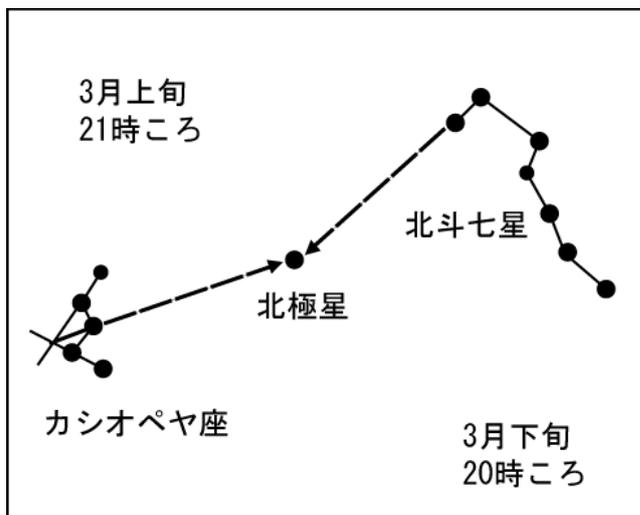


北極星を見つけよう

北極星は、ほぼ真北に見え、ほとんど動くことがなく、北の方角を教えてくれる星です。しかし、明るさは2等星で、特別明るい星ではなく、時々わからなくなることがあります。

こんな時は、北斗七星の星の並びから、見つけることができます。北極星の場所は、右のように、北斗七星の端の二つの星を結んで、その間隔を5倍伸ばした所となります。

北の空の星は、北極星をほぼ中心に、時計の針と反対方向に動いています。このように北極星は、北の方角を教えてくれるだけでなく、星の動きもお教えてくれますので、もし北斗七星が見つかったら、北極星を捜してみてください。なお、右の図の方法で、カシオペア座からも北極星を見ることができます。ただ春の時期は、カシオペア座の高度が低く、見つけるのは難しいでしょう。



北斗七星

北斗七星は、見つけやすい星の並びです。このため、多くの方がご存知かと思いますが、それぞれの星の名前は、あまり知られていません。実は、1等星のようにすべての星に名前がついています。

ぜひ、実際の星空で、どの星がどんな名前か、図を参考に探してみてください。

なお、北斗七星の柄の先から、2個目の星は、ミザールという名前がついていますが、そのそばに、アルコルという名前がついた、暗い星が並んで見えます。注意深く探さか、小さな双眼鏡を使うと見えてきます。このミザールと、アルコルの二つの星は、昔、視力検査に使われていたそうです。いい天気の日、二つの星が分かれて見えなければ、視力が悪くなっている印ですので、こちらにも注目してください。

